



北見赤十字病院 がんサロン ほほえみ

ほほえみ通信

Vol. 123

2019/6/27 発行

第123回 ほほえみ 開催

6月19日（水）第123回 ほほえみを開催しました。
今回は9名の方が参加してくれました。

次回のほほえみは、7/17（水）14時から16時まで
本館3階 特別会議室での開催となります



【がんサロン事務局より】

『血液1滴、尿1滴』

（がん体験記）

先日、『血液や尿1滴でのがん検査が、2020年にも実用化』というニュースを目にしました。

『血液や尿でがんがわかる！？』というニュースを初めて聞いたのは、一昨年だったでしょうか。

「早く実用化されないかな・・・」と、ずっと願ってきました。

なぜなら、がん検査は、部位ごとに受けなければなりません。時間も経済的にも身体への負担も避けられません。痛みや苦痛が伴うものもあれば、女性にとっては恥ずかしい検査もあります。これらを毎年受けなければならないとなると、けっこうなストレスにもなります。

そのせいでしょうか、日本は先進国の中でも検診率が格段に低いようです。その中でも、ここ北海道はさらに低く、北見赤十字病院がある市に至っては、北海道の中でもさらに低くなっているようです。

『日本人の2人に1人ががんに罹る』と言われている時代。誰がなってもおかしくないというのに、未だどこか“他人事”。

「何かあったら病院に行くからいいんだ」と言っている人は少なくありませんが、がんは、早くに見つけて早くに治療をしなければ命をも脅かしかねません。

このがん検査がすべての部位で適用・実用化され簡単に検査を受けられるようになったら、検診率も上がってゆくのもかもしれませんね。

でも一番の不安材料は、その“精度”。早期のがんを見落とすことなく見極めてほしい。

そして、がんでつらい思いをする人、がんで悲しむ人が1人でも少なくなることを、願ってやみません。

（北海道／女性／乳がん／がん患者本人）